

第37回 創薬科学セミナー

日時：2015年11月16日（月曜日）17:00～

場所：創薬科学研究館 2F 講義室

菅波 孝祥 博士

名古屋大学環境医学研究所 分子代謝医学分野

メタボリックシンドロームと慢性炎症 ～代謝性組織リモデリングの分子機 構と医学応用～

メタボリックシンドロームは、肥満の脂肪組織を起点として、アディポサイトカインや遊離脂肪酸を重要なメディエータとする複雑な臓器間ネットワークを介し、全身に慢性炎症が拡大・波及する病態と考えられる。実際に、肥満の脂肪組織そのものが慢性炎症性の変化を示し、ダイナミックな組織学的変化(脂肪組織リモデリング)による脂肪組織の機能障害が生じる。肥満の脂肪組織に特徴的に認められるcrown-like structure(CLS)は、細胞死に陥った脂肪細胞をマクロファージが貪食・処理する構造物であり、脂肪細胞とマクロファージの相互作用の場となる。最近、我々は、結核菌に対する病原体センサーMincleがCLSを形成するマクロファージに局在し、間質線維化を誘導することを見出した。一方、同様の実質細胞・間質細胞相互作用は、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)においても認められ(hepatic CLS)、肝線維化の起点となる可能性がある。

本講演では、メタボリックシンドロームにおける慢性炎症の意義について、特に実質細胞と間質細胞のクロストークに注目して議論したい。

連絡先：細胞生化学分野 人見清隆 内線6807



名古屋大学大学院 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻
Department of Basic Medicinal Sciences, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Nagoya University